

2014年11月19日経営会議の概要

日時 : 2014年11月19日(水) 午前9時~正午
会場 : 政策会議室
委員・幹事・関係者 : 市長、高橋副市長、有金副市長、教育長、政策経営部長、財務部長、経営改革室長、広報担当部長、建設部長、企画政策課長、企画政策課未来づくりプロジェクト担当課長、企画政策課政策研究担当課長、広報課長、総務課長、法制課長、財政課長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課担当課長、地区街づくり課長、建設総務課長、道路整備課長
説明 : 議題1 都市づくり部長、都市整備担当部長、都市政策課担当課長 議題2 子ども生活部長、子ども総務課長、子ども総務課担当課長、子育て支援課長、児童青少年課長

議題1 : 南町田駅周辺地区拠点整備基本方針の策定について (都市づくり部)

【付議の目的】

○南町田駅周辺地区拠点整備基本方針(案)について承認を受ける。

【提案の概要】

都市計画マスタープランで副次核に位置づけた南町田駅周辺地区では、国道16号立体化事業、北口駅前広場などの基盤整備、南町田駅の準急停車化など、主要な道路・交通基盤の整備改善が進捗している。一方で、副次核の主たる構成要素であるグランベリーモールは、当初、10年程度を想定して暫定的に整備されたものであり、開業後15年が経過し、副次核の活性化に資する商業集積をめざした再整備を図る時期を迎えている。

今後、地域一体の中心核におけるコンパクトな機能集積と利便性向上を図り、地域にとってのさらなる魅力付けを行うことで、居住人口の維持、来訪者数の増加を目指すため、南町田駅周辺地区拠点整備基本方針を策定する。本方針では、にぎわい・交流の充実、歩行者ネットワークの形成に向けた拠点整備の考え方を取りまとめるとともに、東京急行電鉄(株)と協働した拠点整備の取組を展開する。

また、方針の目標を「住みたい、訪れたい、活動したい まちの実現ー新たな郊外の魅力発信」とし、拠点整備の方向性として、「鶴間公園と商業地を中心として、にぎわいと交流を促進」、「南町田駅周辺を結ぶ歩行者ネットワークの形成により、まちの利便性を向上」、「地域の住み替えサイクルの実現に向けて、バリエーションのある住環境を創出」を掲げ、鶴間公園の再整備、南北自由通路の整備、ライフステージ・ライフスタイルの変化に対応できる多様な住宅ストックの集積等の取組を示す。

【主な意見】

○南町田駅周辺地区における導入機能及びゾーニングについて整理すること。

○指摘された文言の整理をすること。

【会議結果】

提案内容を承認する。上記意見に留意した上で進めていくこと。

【付議の目的】

○町田市子ども・子育て支援事業計画（素案）について、承認を受ける。

【提案の概要】

町田市では、2004年に「次世代育成支援対策推進法」に基づく「町田市子どもマスタープラン」、また2010年に「町田市次世代育成支援対策推進後期行動計画」を策定し、すべての子どもと子育て家庭を対象に、次世代育成支援を総合的に推進してきた。

一方、国においては、依然として少子化が進行していること、子どもや子育てをめぐる環境が多様化し、孤立感や負担感を覚える家庭があること、保育所が満員で多くの待機児童が発生していることなど、子ども・子育てをめぐる様々な課題に対応するため、2012年8月に子ども・子育て関連3法を成立させ、「子ども・子育て支援新制度」を2015年度に創設することにした。

子ども・子育て支援法に基づき、町田市においても2015年度を初年度とし、2019年度までの5年間を計画期間とした「町田市子ども・子育て支援事業計画」を策定する必要がある。

町田市においては、2013年度に市民や有識者からなる「町田市子ども・子育て会議」を設置し、子育てに関するアンケート調査を実施することにより、市民ニーズの現状把握を行ってきた。

本計画は、「現在の利用状況＋利用希望」を踏まえて事業量を見込んでおり、幼児期の学校教育・保育、地域の子育て支援について、区域ごとに「保育サービス等に関するニーズ量の見込み」、「保育サービス等の供給内容」及び「実施時期」を記載している。

【主な意見】

○特になし。

【会議結果】

提案内容を承認する。